

# ナノメートルサイズの微小突起が口腔常在菌*Candida albicans*に及ぼす抗菌作用に関する検討

小林 博和

北海道大学 大学院歯学院 口腔医学専攻  
口腔診断内科学教室 博士課程3年



## 未来社会のあるべきかたち

- ◆ 生体材料感染による合併症を予防する
- ◆ 患者さんの生命予後の改善に貢献する
- ◆ コスト削減により医療の持続可能性を高める

### この研究で目指すこと

材料表面の微小突起が口腔内常在菌に対して  
抗菌作用を発揮することを実証したい

生体材料感染に起因する誤嚥性肺炎の予防に応用することで、  
生命予後の改善や医療コストの削減に寄与できるのでは？

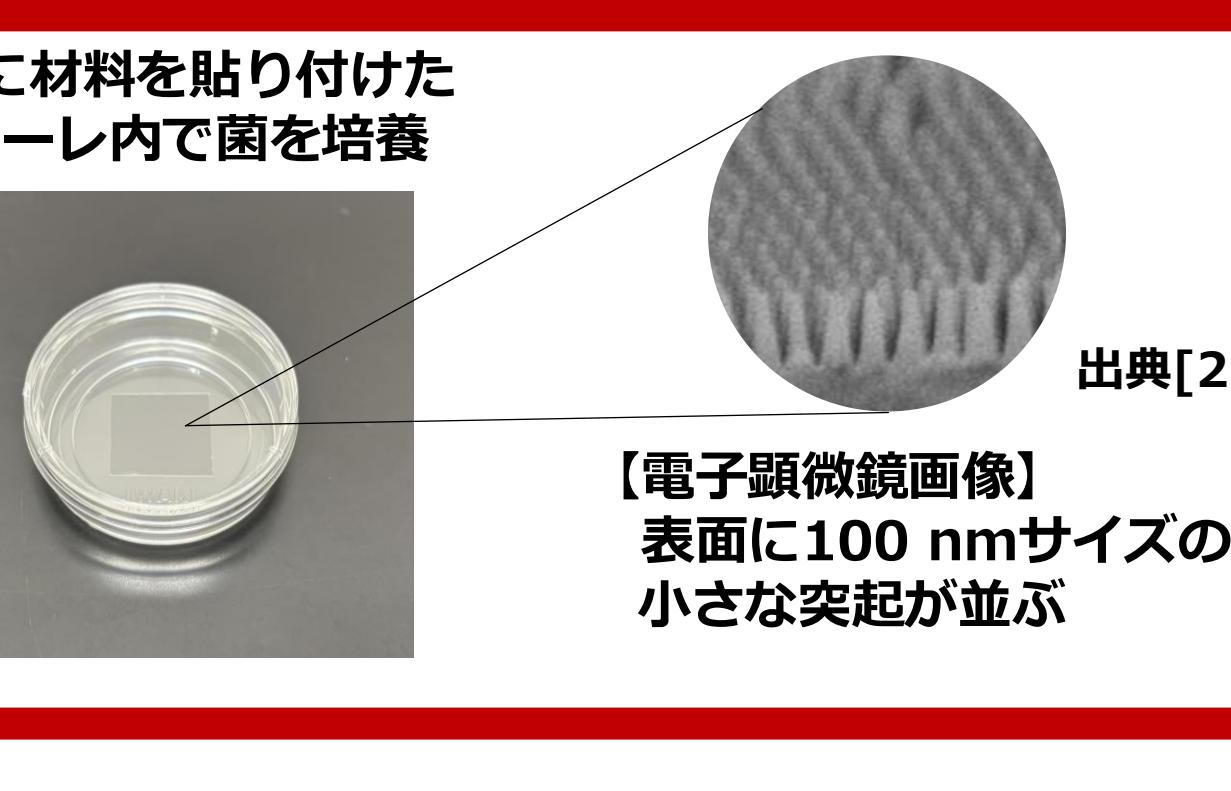
### 背景

#### 生体材料感染

- 気管挿管チューブ等の生体材料は医療の様々な分野で使用される
- 生体材料表面に定着した微生物は強固なバイオフィルムを形成し、生体材料感染を引き起こす原因となる
- 誤嚥性肺炎等の口腔内の微生物を原因とする呼吸器合併症は、生命予後に大きく関わる
- 合併症に対する医療コストの増加も社会的な問題となっている

#### 材料表面の物理的抗菌作用

- セミやトンボ等の翅の表面に存在する微小な突起は、細菌に対して物理的な抗菌作用を発揮する
- 口腔内常在菌に対する物理的抗菌作用を調べた研究はほとんどない



出典[1]

### 実験

- 口腔内真菌 *Candida albicans*
- 表面に約100ナノメートルの微小な凹凸を有する樹脂材料と、平滑な樹脂材料上で菌を培養し、バイオフィルムの形成量と細胞の付着した面積を比較した

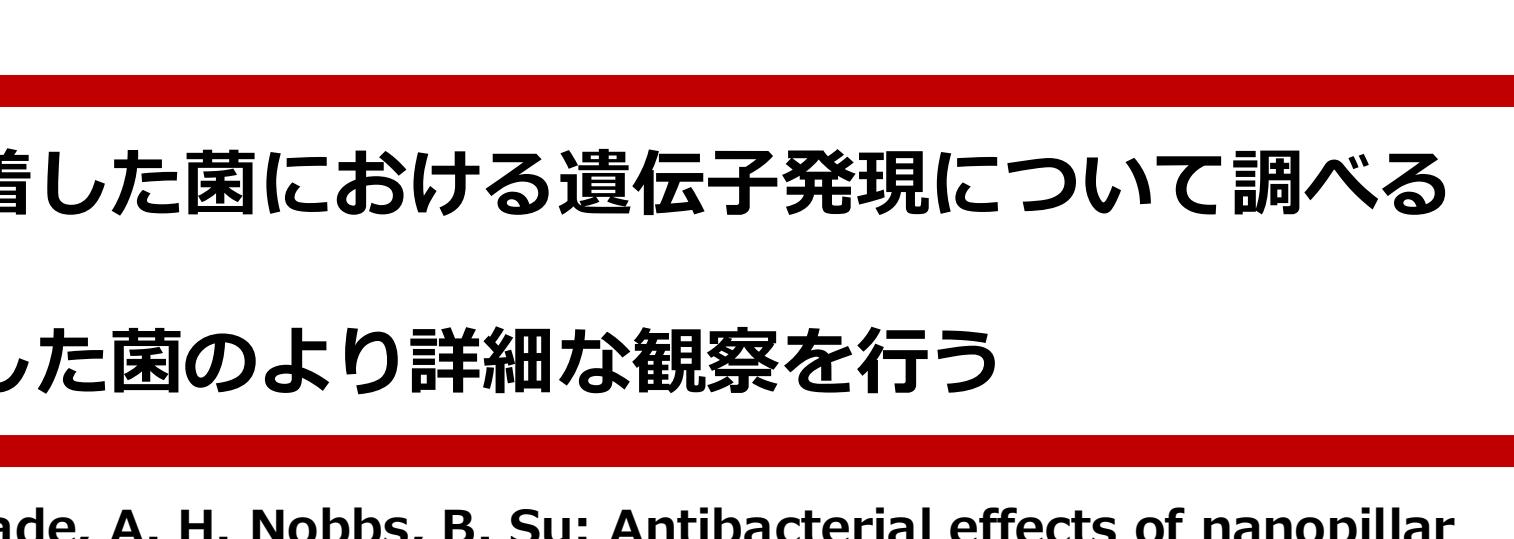
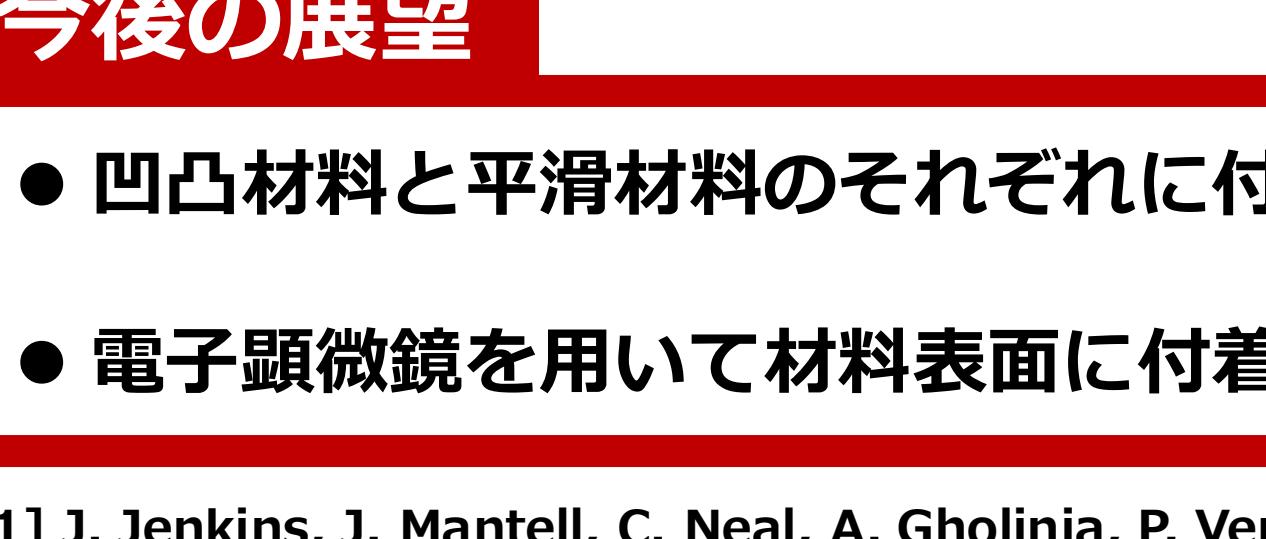
底面に材料を貼り付けたシャーレ内で菌を培養



【電子顕微鏡画像】  
表面に100 nmサイズの小さな突起が並ぶ

### 結果

- 微小凹凸材料では、付着した細胞とバイオフィルム形成量が少ない傾向を示した



- 凹凸材料と平滑材料のそれぞれに付着した菌における遺伝子発現について調べる
- 電子顕微鏡を用いて材料表面に付着した菌のより詳細な観察を行う

[1] J. Jenkins, J. Mantell, C. Neal, A. Gholinia, P. Verkade, A. H. Nobbs, B. Su: Antibacterial effects of nanopillar surfaces are mediated by cell impedance, penetration and induction of oxidative stress. Nat Commun 11: 1626, 2020.

[2] [https://www.m-chemical.co.jp/products/departments/mcc/industrial-medical/product/1200589\\_7256.html](https://www.m-chemical.co.jp/products/departments/mcc/industrial-medical/product/1200589_7256.html)

本研究は、JST 次世代研究者挑戦的研究プログラム JPMJSP2119 の支援を受けたものです  
本研究は、三菱ケミカル株式会社様のご協力のもと実施しているものです